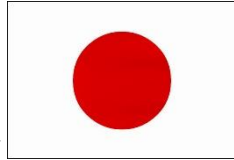




ナミビア通信

～のんびり(Nombili)～



青年海外協力隊
岩塚善哉
7th. May. 2019 No.9

平成が終わり、いよいよ「令和」時代の始まりですね。アフリカのナミビアにいても、インターネットや SNS を通じて、日本の情報がすぐに入ってくるので、4月1日に新しい元号が発表された際もスマートフォンですぐに知ることができました。ナミビアは、1月から4月中旬までが1学期で、5月から2学期が始まります。ナミビアの生徒たちは寮生活が多く、休みの間は村に帰り、畑や家畜の仕事の手伝いなどをしています。

ナミブ砂漠について(Namib desert)

ナミビアは観光する場所が多く、海外からの旅行者が増えており、最近では日本人観光客も増加傾向にあるといます。人気の観光先の一つ、「ナミブ砂漠」について紹介したいと思います。

ナミブ砂漠は、世界遺産になっており、ナミビアの西にある海岸一帯にかけて南北に1,288km 砂漠が続いています。世界で最も古い砂漠で、約8000万年前から現在まで存在し続けています。山脈から砂が海岸の強風によって運ばれ、砂丘が形成されたと言われていています。雨はほとんど降らないのですが、霧が現れることが多く、その水分で動植物たちは生き延びています。また、その濃霧や沿岸の激しい暴風や荒波によって、船やクジラなどが海岸に打ち寄せられることが多く、その海岸は「スケルトンコースト（骸骨海岸）」と呼ばれています。なんと、日本の漁船も去年2018年3月に難破しています。日本の漁船がナミビアまで漁にきていることにも驚きました。



DUNE45の頂上



デッドフレイの景色

ナミブ砂漠には、赤い砂丘と白い砂丘があり、赤い砂丘は、酸化鉄の色によって赤く見えます。そのため磁石で砂鉄を集めることができます。「DUNE45」という85mの砂丘に登りました。そこからの景色は格別です。これらの砂は500万年前にできた砂と言われています。その他には「デッドフレイ」と言われる場所があります。「フレイ」とはアフリカンス語で沼地のことを指します。もともとは沼地だった水が600~700年前に枯れてしまい、生えていたアカシアの木なども枯れてしまいました。しかし

枯れてもなお、とても乾燥した環境のため、分解されることなく姿を保ち、独特の風景を形作っています。

結婚式に参加しました。(Attended to the wedding)

同僚の親戚の結婚式に参加させていただきました。「オバンボランド」と言われるナミビアの北西部あたりの地域では、新郎の村と新婦の村で2回式を挙げます。伝統的な式とキリスト式で行うのが一般的です。

参列する人は、何かプレゼントを渡したり、ご祝儀を渡したりします。また、参列者が新郎新婦に杖の贈り物をしていたので尋ねると、その杖一本が



贈り物もらう新郎新婦



新婦を迎え入れる儀式

牛一頭を表しているとのことでした。牛はとても高価なものですが、祝い事の時にその場でさばいて振る舞うこともあります。式ではオバンボドレスと言われる服装を着た女性たちが、村に新婦を迎え入れます。馬のしっぽで作ったほうきのようなものを持って上下に振ります。「レレレレ」という独特な声を発し、気持ちの高鳴りを表現していたのが印象的でした。披露宴では、サバンナの中に特設レストラン会場がつくられ、たくさんの食事が振舞われました。そして、参列者はダンスや写真撮影などを楽しんでいました。